



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



科研費申請は、研究者のプライド

歯学研究科長 高見 正道



新型コロナウイルスの脅威は、世界中の研究に大きな影を落としています。そのような中で、科研費申請が例年通り実施されるのは大変ありがたいことだと思います。

研究は、どんなに素晴らしい“アイデア”や“やる気”があっても、『資金』がなければ実行できません。したがって、高い志をもつ研究者にとって、科研費を申請することは必然的な行為であるといえます。

また、科研費には、①若手研究者の成長と自立を促す、②採択されれば実績のひとつとなる、③申請書の作成過程で、自分の研究の「価値」を客観的に見直す、など、資金獲得以外にも研究者にとって大切な意味があります。

もちろん、どんなベテラン研究者でも申請書の作成には多大な苦勞を伴うのも事実で、自分の目標や研究に対する思想が固まっていない若手研究者は、なおさら五里霧中に陥りやすい。

ブラッシュアップ委員会(美島委員長)は、そのような若手をはじめ、採択を目指す教育職員の申請書作成を積極的に支援します。

全国の科研費申請者のほとんどは大学の教員です。私たちも昭和大学の教育職員である限り、研究者としてのプライドをもって申請書作成にチャレンジしましょう。皆さんの健闘を祈ります。

令和3年度の科研費の公募が始まりました

科研申請書ブラッシュアップ委員会
委員長 美島 健二



科学研究費助成事業(科研費)の申請時期がやって参りました。高見研究科長に代わり、本年度から科研申請書のブラッシュアップ委員会委員長を務めます口腔病理の美島と申します。

本年度は「若手研究」の申請要件に大きな変更がありました。すなわち、これまでは「39歳以下の博士号未取得者」についても申請が認められておりましたが、本年度より認められなくなりました。「若手研究」は昨年度の採択率が40%と「基盤研究」に比べると10%以上高い採択率を示していました。今後、応募種目の変更を余儀なくされる若手の先生方が増えるものと予想されます。指導教員の先生方におかれましては、今まで以上に丁寧なご指導を宜しくお願い申し上げます。

今年はコロナ禍の状況を鑑みて、例年、旗の台校舎と歯科病院でそれぞれ開催されておりました対面の説明会が Web 開催に変更されました。本年度作成されたビデオ教材は、繰り返し視聴することが可能ですので、申請書の作成に積極的に活用頂ければ幸いに存じます。

皆様のご尽力により歯学部の採択率は全国平均に比べても高い数字を維持することが出来て

おります。関係する先生方に御礼申し上げますとともに、引き続きご指導・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。一人でも多くの先生方が採択される事を祈念しております。

[令和3(2021)年度 科研費公募における主な変更点]

1) 「若手研究」における変更点

- ① 研究期間が「2～4年間」から「2～5年間」に延伸します。
- ② 39歳以下の博士号未取得者の応募が出来なくなります(☆)。
- ③ 「基盤研究」種目群を受給した研究者については応募できなくなります。

2) 「基盤研究(B)」:

若手研究者の応募課題を積極的に採択できる仕組みはなくなります。

科研費を獲得しました。

総合診療歯科学部門 山田 理



総合診療歯科のメンバー：前列右端が著者(山田 理)

令和2年度(2020年度)若手研究，研究課題「う蝕罹患歯質における赤色励起蛍光の発現条件の開発」において，科研費を獲得しました。

この研究課題は私自身大学院生のころからの研究テーマであり，う蝕罹患歯質に青色励起光を照射することによって発現する赤色励起蛍光の条件について今後の課題となっていた部分だったため，科研費を獲得できたことでさらにやりがいを感じております。

今回，科研費の研究計画書を作成するにあたり，歯学部科研費ブラッシュアップ委員会が実施した「科研費申請書の書き方講習会とその資料」はとてもわかりやすく記載されており，詳しく標記したほうが良い点や，強調したい文章の表現方法など具体例が記されていたこともあり，とても参考にさせていただきました。

また，ご指導くださった総合診療歯科 長谷川篤司教授，口腔微生物講座 桑田啓貴教授をはじめ多くの先生方に御礼申し上げますとともに，今後も一層精進していきたいと思っております。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

日時
9月24日
未定

行事
大学院秋季修了式
富士吉田父兄会

科研費を獲得しました

小児成育歯科学講座 松島 瞳

この度、「乳幼児期におけるミティスレンサ球菌の口腔内細菌叢形成における役割の解明」というテーマで，2020年度若手研究の科研費を獲得することができました。大学院卒業後にスタート支援を申請するにあたり，歯学部科研費ブラッシュアップ委員会が実施した，科研費申請書の書き方講習会に参加させていただきました。その際，申請書の基本的な書き方やポイントなどを細かく指導していただき，今でも大変役に立っております。



私は小児歯科に所属しており，日頃は小児の歯科治療をメインに行っております。齲蝕で来院された患児が治療を終了し，齲蝕がない状態で永久歯列期に成長していくことを最大の目標としております。この研究が小児期における齲蝕予防の一助となることを目標にこれからも日々精進してまいりたいと思っております。

最後に，研究を手厚く指導してくださっている口腔微生物学講座の医局員の先生方，そしていつもサポートしてくださっている小児成育歯科学講座の医局員の先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

第11回 昭和大学教育者のためのワークショップ (ビギナーズ) に参加しました

口腔リハビリテーション医学部門 野末 真司



8月17日～19日に上條記念館にて行われたワークショップに医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部・富士吉田教育部・看護専門学校から教職員40名が参加しました。今回は新型コロナウイルスの影響があり、通いで参加となり事前学習および課題を行ったうえでの参加となりました。

事前学習では当日の班内での討論に必要な知識をわかりやすく解説していただいたため、討論にスムーズに入っていくことができました。班での討論の内容は育てたい医療人像、目指す教員像という目標となることから、実際にチーム医療に関する教育のカリキュラムを作成するために必要な最終的なアウトカム、そこに到達するためのパフォーマンス、その方略や評価の方法までカリキュラムを作る際に必要なことについて行いました。最終的なアウトカムおよびそこに到達するためのパフォーマンスを考える際は学生に分かりやすくかつやる気が出るように具体的に端的にということが求められ、評価の部分では様々な評価方法からそのパフォーマンスを適切に評価できる方法を選択する作業が非常に難しかったです。ただ、班内の意見や他の班の発表で様々な考え方を聴くことができ、非常に勉強になりました。



現在の状況からオンライン授業についての講演を聴くことができ、学生はオンライン授業の方が何回も聴くことができ、良いという意見があることを知りました。このワークショップの最後に自分の分野でのカリキュラムを作成することが行われました。オンライン授業を中心としたカリキュラムを作成しましたが、その際に設定した事前学習が他の科目でもあることから学生の負担になってしまうという問題点を知ることができました。

今回の学んだ内容を今後の授業にうまく活かしていければと思います。

最後になりましたが、この状況下で感染対策を徹底していただき、準備して下さったスタッフの方々、およびご教授いただいた先生方に心より感謝申し上げます。



第11回 昭和大学教育者のためのワークショップ (ビギナーズ) に参加しました

全身管理歯科学講座 歯科麻酔科学部門

立川 哲史



8月17日～19日の3日間で開催された、第11回昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナーズ)に参加させていただきました。コロナ禍により、例年泊まり込み形式でしたが、今年は上條記念館にて、通いの形式で開催されました。

4学部に加え富士吉田教育部も含めた様々な職員のメンバー総勢40名が5チームに分かれ、活発な議論を交わしました。

初日においては、どのような医療人になりたいかを、チーム、そして全体で共有し、様々な視点からの医療人像を知ることができました。

2日目の終わりには、昭和医学専門学校の開学以来、その後もたゆまず革新を続けてきた昭和大学の歴史を小口理事長がご講演くださり、参加者は深い感銘を受けました。未来へ向けて



の昭和大学のヴィジョンと、クリニカルクラークシップを忘れず、教育者としての心構えを説いていただき、小口理事長の力

強いお言葉に勇気づけられるとともに、医療人として、より高いレベルに到達できるように気持ちを新たにできました。

オンラインでの教育のための方略や評価は、以前より議論されてきていましたが、今現在、コロナ禍により、教育の変革が必要に迫られています。今回のWSでは、そのようなオンライン化に伴う新たな方略だけでなく、PIF(職業アイデンティティ)に着目し、自己調整学習力を高めていく新時代の医療系教育に関して、非常に理解が深まるとともに、様々な意見交換が行えました。今回のWSで得た知識をぜひ応用し、時代の変化に適応できる教育者を目指していこうと感じました。



編集後記 歯科放射線医学部門 松田 幸子

8月号は学生さんたちの研究成果の発表や、海外への短期留学など、元気いっぱいの記事が多く、その記事を編集しながら、自分も頑張らねば！と思って今までは編集作業を担当していました。ところが、今年はそれがすべてなくなってしまいました。何かこの新聞を手に取りの方が元気になるような、前向きな話題はないかなあと思っていたところ、研究の話題が前向きでいいのではないかと思い、中村編集委員長にご相談させていただき、研究をテーマとした話題を、学生さんの記事の代わりにお届けします。

今回は特別に歯学研究科長の高見先生、ブラッシュアップ委員会の委員長である美島先生にお願いして、科研費に関するテーマの記事をお願いいたしました。また、研究費が採択された若手の先生にも記事をお願いいたしました。学生さんのために何ができるのかを考えるワークショップの記事も含めて、原稿作成に貴重なお時間を割いてご寄稿いただいたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

この号をお読みいただくことで、未来に向かって、今自分ができることは何か、自分なりの答えを探して歩きだしていくきっかけとなったら幸いです。

